

■ これからのセンターに求められる役割等に対する意見

●「動物愛護精神・適正飼養の普及」に対する意見

No.	意見の概要	審議会
1	人を教育する場という理念も重要	第1回
2	普及啓発において、民間との連携は重要	第2回
3	動物との共生を学ぶ普及啓発について、子供に焦点が向かいがちであるが、中高生や獣医学生などに広げること必要	
4	譲渡に限らず、新しく飼い主になる人へ講習会の対象を広げていくと良い。	

●「適切な飼養管理・譲渡の推進」に対する意見

No.	意見の概要	審議会
5	ソフト面では、「動物福祉ファースト」とすることが重要	第1回
6	動物を飼っているとき、トラブルの小さいうちに未然に問題を解決するサポートシステムがあると良い。	第2回
7	動物愛護推進員をもっと活用してはどうか。(譲渡後のフォローアップ等)	
8	譲渡前の飼養管理が長くなることがある。個体ごとの管理が基本であるが、海外には、動物の習性やストレスに配慮し、群れで運動させる等の飼養管理を行っている国がある。(スイス、オーストリア)	
9	情報の発信、譲渡会等の場の提供について拠点としての役割を果たしてほしい。	
10	インターネット等、SNSの活用も考えてほしい。	

●「災害時等における的確な危機管理」に対する意見

No.	意見の概要	審議会
11	ワンヘルスの考え方(感染症対策は動物や環境を感染源として重視し、総合的対策をとる必要があるとの考え方)に基づき対策の強化が必要。	第1回
12	一時収容体制が必要である。また、多頭飼育が崩壊した際の収容も必要になってくる。	第2回

■ 今後の動物愛護相談センターの整備の方向性に対する意見

No.	意見の概要	審議会
13	本所、城南島出張所の2所を訪問したが、収容施設のような暗い印象であった。明るく、開かれた、人が集まりやすい施設にすることが必要	第1回
14	センターが、寂しい、汚いイメージであるのは好ましくない。	
15	長野県が施設を建てた際は、時間をかけてしっかりと検討したため、その後もリニューアルをせずに運営することができている。参考とされたい。	
16	利便性にも配慮し、良い場所につくることが重要	第2回
17	都は地価も高いが、人もボランティアも集まりやすい。都市型のセンターの実現を目指すのが良い。	
18	現在の施設は、駅から遠く、車も止められず、譲渡には向かない。今の時代にふさわしい施設にしてほしい。	
19	今後の機能充実の方向でいく場合は、現在の3所では無理だと思っている。新たな、機能の充実している施設が必要	
20	日常的に譲渡ができれば良いと思う。動物にとって快適な環境かどうか重要であり、犬と猫でも異なることを考慮した上で、この機に適切な場所に新しい施設をつくるべき	
21	災害時にも機能することができる場所にあることが必要	
22	センターのような施設は、住民から反対を受け駅から遠くなりがちである。サテライトのようなものを街の中心に、本所を郊外に、という選択肢もある。人が集まりやすい場所にするのが良い。	
23	動物由来感染症のことを考えると都市部にあるのは危険だと思うが、普及啓発、譲渡を考えると、都市部が良い。ビルの1フロアでも良く、便利な場所が良いと思う。郊外では保管等を行い、譲渡に特化したセンターもつくるなど、分ける考え方もあるのではないかと。	
24	施設としては一元化の方が良い。	
25	現在、本所、城南島と区部の南側に位置しているので、足立、板橋、練馬など北側に一か所増やしてはどうか。	